

大会主題
主題設定の趣旨
一次案内
分科会（協議題等）

修正版

令和4年8月18日（木）
日本連合教育会理事会（2）

（一財）山口県教育会

令和4年8月18日

日本連合教育会 会長 有賀 康修
(一財) 山口県教育会 会長 倉増 誠彦

第74回 日本連合教育会研究大会山口大会 第50回 山口県教育県民大会 第一次案内

皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日本連合教育会は、昭和24年発足以来、常に中正不偏の教育実践を念頭に、世界の平和と人類の福祉に貢献できる日本人を育成するために真摯な取組を続け、第74回研究大会を山口県で開催する運びとなりました。併せて、本大会は、例年催している「山口県教育県民大会」を兼ねての開催といたします。

今回の大会では、高度な技術革新、情報化等、社会が激しく変化し先行きを見通すことが難しい今日、さらに超少子高齢化や危機管理、環境問題等が複雑に絡み合っています。これらの変化から可能性を見つめ、人間らしく積極的に明日の日本を創造する子供の育成を求め、大会主題を「時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」としました。

県内の先生方、保護者、地域の皆様をはじめ、全国各地から多くの皆様にご参加いただき、未来を担う子供たちの育成と成長について語り合うことができますよう心からお待ち申し上げ、ご案内いたします。

開 催 要 項

大会主題 時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成

- 1 主催 日本連合教育会 一般財団法人山口県教育会
- 2 後援 文部科学省 山口県 山口県教育委員会 山口市 山口市教育委員会
(公財) 山口県ひとづくり財団 (公財) 日本教育公務員弘済会山口支部
山口県青少年育成県民会議 (一財) 山口大学教育学部同窓会
山口県小学校長会 山口県中学校長会 山口県高等学校長協会
山口県公立学校教頭会 山口県退職校長園長会 山口県公立高等学校等退職校長会
山口県退職公務員連盟 山口県PTA連合会 山口県公立高等学校PTA連合会
山口県私立中学高等学校PTA連合会 山口県国公立幼稚園・こども園連盟
(公財) 山口県私立幼稚園協会 山口県国公立幼稚園PTA連合会
(一財) 山口県保育協会 (一社) 山口県子ども会連合会 山口県公民館連合会
(公財) 松風会 山口県社会教育委員連絡協議会 (公社) 日本教育会山口県支部
- 3 期日 令和5年8月17日(木)～18日(金)
- 4 会場
 - (1) 理事会 セン트コア山口 (山口市湯田温泉3-2-7) ☎083-922-0811
レセプション
 - (2) 青年教師の会 防 長 苑 (山口市熊野町4-29) ☎083-922-3555
交流会
 - (3) 全体会 山 口 市 民 会 館 (山口市中央2-5-1) ☎083-923-1000
 - (4) 分科会 山 口 市 民 会 館 (山口市中央2-5-1) ☎083-923-1000
山口県教育会館 (山口市大手町2-18) ☎083-922-0383
山口県社会福祉会館 (山口市大手町2-18) ☎083-924-1035
中市コミュニティーホール (山口市中市3-13) ☎083-925-1617

5 日程

15:00 15:30 17:20 17:30 19:00

8月17日 (木)	受付	日連教理事会	休憩	レセプション
		青年教師の会	移動	交流会

8:30 9:00 9:40 10:10 11:30 12:10 13:30 16:30

8月18日 (金)	受付	開会式	全体会	記念講演	アトラクション	移動 昼食	分科会
--------------	----	-----	-----	------	---------	----------	-----

6 大会内容

- (1) 開 会 式 挨拶・祝辞・表彰等
- (2) 全 体 会 日本教育会会務報告 大会主題設定の趣旨説明
大会宣言文採択 次期開催地愛媛県教育会挨拶
- (3) 記 念 講 演 講師：東京2020パラリンピック女子マラソン金メダリスト
道 下 美 里 様
演題：未定
- (4) アトラクション 維新劇・創作ミュージカル
「SHOWIN～若き志士たち～」特別ヴァージョン
S・RやまぐちSHOWINユニット
- (5) 分 科 会

No.	分 科 会 名	協 議 題	提案 教育会	会 場
1	学 習 指 導	ICT機器の効果的な活用と「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善	() 山口県	山口市市民会館 (小ホール)
2	教 育 課 程	「令和の日本型学校教育」の構築をめざす教育課程の編成	() 山口県	山口県社会福祉会館 (大ホール)
3	道 徳 教 育	人として他者とともによりよく生きる子供を育てる道徳教育の推進	() 山口県	山口県教育会館 (第1研修室)
4	生 徒 指 導	「チーム学校」で取り組む生徒指導の推進	() 山口県	中市コミュニティ ホール (2階会議室A・B)
5	特別支援教育	生きる力を共に高め合う特別支援教育の推進	() 山口県	中市コミュニティ ホール (1階多目的ホールA)
6	人 権 教 育	人間尊重の精神に立った人権教育の推進	() 山口県	中市コミュニティ ホール (1階多目的ホールB)
7	健康・安全教育	健康・安全課題の解決に主体的に対応できる子供の育成	() 山口県	山口県教育会館 (第2・3研修室)
8	外 国 語 教 育	グローバル人材の育成をめざす外国語教育の推進	() 山口県	山口県教育会館 (第4研修室)
9	幼 児 教 育	未来を豊かに生きる力の基礎を培う幼児教育の推進	() 山口県	山口県社会福祉会館 (第1会議室)
10	学校・家庭・地域の連携(シンポジウム)	人づくりと地域づくりの好循環を創出する地域連携教育の推進	() 山口県	山口市市民会館 (大ホール)

7 参加予定者 約800名 (県外350名 県内450名)

8 大会参加費 3,500円 (昼食代を含む)

第 74 回日本連合教育会研究大会山口大会
第 50 回山 口 県 教 育 県 民 大 会

大会主題

時代の変化を前向きに捉え 志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成

【主題設定の趣旨】

日本連合教育会は、昭和 24 年発足以来、常に日本の教育振興刷新を図ると共に世界の平和と人類の福祉に貢献できる日本人の育成を目指し、日々教育実践に努め研究大会を開催している。

2020 年代、知識・情報・技術をめぐる変化が一層加速化し、情報化やグローバル化に代表される社会変化が人間の予測を超えて進展し続けている。とりわけ人工知能をはじめとする情報革新や科学技術の進歩は、私たちに生活の便利さや豊かさをもたらす反面、その営みは高度に産業化され、地球環境に影響を及ぼすほどの大規模な変化を誘発している。同時に、私たちは、今後ますます進む超少子高齢化社会、知識基盤社会、また気候変動や防災危機管理等が複雑に絡み合う中で生まれる多様な変化に立ち向かわなくてはならない。加えて、世界各国における新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大という人類にとって未曾有の危機を経験し、その拡大防止と社会生活の両立に向けた新しい生活様式や学校教育における学びへの大きな変革が求められている。

このような中、令和 4 年度は高等学校においても新教育課程の学年進行による実施が始まり、我が国の学校教育が目指す社会に開かれた教育課程が全校種で共有化された。ここで育む力は、激しく変化する時代にあって、まさに人が人として正しく考え、判断し豊かに生きるための力であり、未来を力強く生き抜くための知恵である。

これからの日本人が予測困難な未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。とりわけ未来を創造する子供たちには、理想とする目標を高く掲げ、変化の中で、できないことよりもできることに目を向けて可能性を見定めてほしい。そして、実現に向かう道筋を柔軟に選択し、他者との協働もいとわず自らの知恵を遺憾なく生かし、未来を着実に切り拓いていく力を身に付けて成長してほしいと願っている。

古くから、各時代において伝統文化の華を咲かせた「西の京」山口県は、「新進気鋭の志」をもって明治維新という新しい時代を切り拓いた「維新のふるさと」でもある。日本を取り巻く諸外国の事情に通じ、物事を鋭敏に観察し、新たな社会を創造していくなどの先人の気質は、よき風土として継承され、現在も山口県教育の振興に息づいている。先行き不透明で予測が困難な現代において、時代を読み、明るい未来に向けて志高く新たな社会の創造主となる子供の姿を求め、大会主題を「時代の変化を前向きに捉え、志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成」とした。

第 74 回日本連合教育研究大会山口大会
第 50 回山口県教育研究大会山口大会
分科会協議題・協議題設定の理由・協議の視点

山口県教育会

令和 4 年 8 月 18 日 日連教理事会

【第 1 分科会】

学 習 指 導	ICT機器の効果的な活用と「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善
【協議題設定の理由】	
<p>急速な情報化の進展やSDGsに代表される持続可能な社会の創造など、予測できない未来社会を生き抜く子供たちに、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力や人間性」といった三つの力をバランスよく育み、「生きる力」を培うことが大切である。</p> <p>学校においては、これまでの我が国の150年に及ぶ教育実践の蓄積の上に、個別最適化された学びに向けた教育環境の整備で配備された一人一台端末等を活用し、効果的な学習方法を研究実践するとともに、「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現し、三つの力をつけていくか、授業改善に努めている。</p> <p>そこで、本分科会では、効果的な授業の在り方について深めるため、次の視点について協議する。</p>	
【協議の視点】	
<p>(1) ICT機器の効果的な活用による授業改善</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びのある授業による子供たちの成長</p>	

【第 2 分科会】

教 育 課 程	「令和の日本型学校教育」の構築を目指す教育課程の編成
【協議題設定の理由】	
<p>中央審議会答申（令和3年1月）では、新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むためには、これまで日本型学校教育が果たしてきた本質的な役割を継承するとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を通じた「令和の日本型学校教育」を実現する必要があると述べられている。</p> <p>そのためには、学校が社会や世界と接点をもちつつ、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことのできる、社会に開かれた教育課程を編成し、これらを介して「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、全教職員、保護者や地域の人々を巻き込んだカリキュラム・マネジメントを確立していくことが重要である。</p> <p>そこで、これらの実現に向けた教育課程の編成と取組について、次の視点から協議する。</p>	
【協議の視点】	
<p>(1) 「令和の日本型学校教育」が描く学びの実現を目指す教育課程の編成と取組</p> <p>(2) 全教職員が組織的に参画するカリキュラム・マネジメントの実施と評価</p>	

【第3分科会】

道 徳 教 育

人として他者と共によりよく生きる子供を育てる道徳教育の推進

【協議題設定の理由】

情報革新や科学技術が加速度的に進化し、社会の変化は、予測が困難なほど急激に進展し続けている。とりわけ人工知能やロボット技術が社会を大きく変えていき、人としてどう生き抜くか、これまで以上に人間としての価値や生き方が強く問われている時代となってきている。このような状況の中、世の中がどのように変化しようとも、常に前向きな姿勢で未来に夢や希望をもち、自立した人間として、他者と共によりよく生きていくことを志向する生き方が大切であり、その基盤となる道徳性を養っていくことが一層強く求められている。

そのためには、道徳教育と道徳科の特質を踏まえ、道徳教育の要となる道徳科のさらなる質の向上と学校の教育全体で行う道徳教育をいかにマネジメントしていくかが重要となってくる。

そこで、本分科会では、次の視点について協議する。

【協議の視点】

- (1) 道徳教育の要となる、道徳科の指導と評価の工夫について
- (2) 学校、家庭、地域が協働する道徳教育のカリキュラム・マネジメントの工夫

【第4分科会】

生 徒 指 導

「チーム学校」で取り組む生徒指導の推進

【協議題設定の理由】

近年、グローバル化や情報化、少子高齢化など、社会の急激な変化が進展する中、人々の価値観の多様化が進み、規範意識や倫理観の低下が見られるとともに、ネット上の問題の顕在化など、学校だけでは解決困難な生徒指導上の課題が山積している。

そのような中、全ての子供たちが自己肯定感や自己有用感を高め、生徒指導が目指す「自己指導能力の育成」に向け、学校においては組織として機能する生徒指導体制の充実を図るとともに、保護者や地域社会等と緊密に連携した「チーム学校」としての取組が求められている。

そこで、本分科会では、問題行動等の未然防止や積極的な生徒指導の観点から、学校が中核となり、保護者や地域社会、関係機関等と緊密に連携した「チーム学校」の推進について、次の視点を中心に協議する。

【協議の視点】

- (1) 組織として機能する校内生徒指導体制の在り方
- (2) 保護者や地域社会、関係機関等と連携した「チーム学校」の取組

【第5分科会】

特別支援教育

生きる力を共に高め合う特別支援教育の推進

【協議題設定の理由】

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、障害のある子供とない子供ができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指す場合、それぞれの子供が、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていくことが最も重要となる。

通常の学級においても特別な教育的支援を必要とする子供が在籍している可能性があることを踏まえつつ、学習指導要領では、小・中学校の各教科等において、障害のある子供が学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することが求められている。また、全ての子供が共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むための交流及び共同学習を行うことも求められている。

そこで、本分科会では、次の視点を中心に協議をする。

【協議の視点】

- (1) 一人一人の子供の困難さに応じたきめ細かな指導の在り方
- (2) 共に尊重し合いながら協働して生活する態度を育む交流及び共同学習の取組

【第6分科会】

人権教育

人間尊重の精神に立った人権教育の推進

【協議題設定の理由】

人権とは人間の尊厳に基づいて各人がもっている固有の権利であり、社会を構成する全ての人々が個人としての生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために欠かすことのできない権利である。そして、それは人間固有の尊厳に由来すると言われている。

人権教育は、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を意味する。「人権教育・啓発に関する基本計画」は、そのための手法として、「法の下での平等」、「個人の尊重」という人権全般の普遍的な視点からのアプローチと、具体的な人権課題に即した個別的な視点からのアプローチが示され、この両者が相まって人権尊重についての理解が深まっていくとされた。これらいずれの手法においても、人権教育は人間尊重の精神に基づいて推進していく必要がある。

そこで、本分科会においては、次の視点を中心に協議を進める。

【協議の視点】

- (1) 人間尊重の精神の深化を図るカリキュラムの在り方
- (2) 他教科との関連や地域や家庭との連携を通して人間尊重の精神を育む人権教育の在り方

【第7分科会】

健康・安全教育	健康・安全課題の解決に主体的に対応できる子供の育成
【協議題設定の理由】 「健康第一」「安全第一」と言われるように、健康で安全な生活を送ることは、これからの社会を生き抜く上で、子供たちにとっても欠かすことのできない最優先事項である。 しかし、心身の健康の基盤となる食や運動を始めとした生活習慣に関する問題、地震や台風、豪雨等の自然災害に関する問題、不審者や交通事故等の安全に関する問題、さらには新型コロナウイルス等による感染症の問題等、子供の健康・安全に関する課題は年々増加傾向にある。 このような課題に対応するためには、子供自らが情報を整理し、健康や安全に関する課題を自覚し、主体的に対応できる資質・能力を育成していくことが大切である。そのためには、学校・家庭・地域が連携し、効果的に関わっていくことが有効と考える。 そこで、本分科会では、次の視点を中心に協議する。	
【協議の視点】 (1) 心身の健康の保持・増進を図るための望ましい生活習慣の確立 (2) 事件・事故・災害等から自らの命を守る危機管理能力の育成	

【第8分科会】

外国語教育	グローバル人材の育成を目指す外国語教育の推進
【協議題設定の理由】 グローバル化が加速する社会において、これからの時代を生きていく子供たちに必要な力として、国際共通語である英語によるコミュニケーション能力の育成が重視されている。小学校外国語教育はそうした中で本格実施されたが、系統的な言語活動や指導と評価の一体化、中学校教員との連携の在り方等々、いまだ課題を抱えている。 この学びが持続可能な社会の創り手となる子供たちの将来にどのような力となって生きて働くのかということとを再考するとともに、この教育を担う指導者が今なお抱く不安や疑問を払拭し、限られた教員の時間とエネルギーを効率よく子どもの学びへとつなげるための方策についても考えたい。 そこで、本分科会では、次の視点について協議する。	
【協議の視点】 (1) 中学校への円滑な接続を見据えた小学校外国語教育の在り方 (2) ICT活用の工夫による効率的な外国語教育の在り方	

【第9分科会】

幼 児 教 育	未来を豊かに生きる力の基礎を培う幼児教育の推進
【協議題設定の理由】 生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育では、幼児が、将来、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、これからの社会の創り手となるための生きる力の基礎を培うことが求められる。 そのためには、幼児期に育みたい資質・能力の三つの柱について、幼児教育の特質を踏まえてより明確化・具体化し、遊びを通しての総合的な指導を行う中で一体的に育んでいくことが重要である。また、様々な幼児教育施設等の全てにおいて、幼児の自発的な活動としての遊びが発達の基礎を培う重要な学びであることを念頭におき、資質・能力を育む学びの過程を意識した質の高い教育の実践も重要である。 そこで、本分科会では、幼児期に育みたい資質・能力の育成を目指す教育内容の充実について、次の視点を中心に協議する。	
【協議の視点】 (1) 幼児期に育みたい資質・能力の育成に向けた教育内容の充実 (2) 学びの連続性を踏まえた小学校教育との円滑な接続の在り方	

【第10分科会】

学校・家庭・地域の 連携	人づくりと地域づくりの好循環を創出する地域連携教育の推進
【協議題設定の理由】 複雑で予測困難なこれからの時代を子供たちが生き抜いていくため、社会総がかりで子供たちの学びや育ちを支える地域連携教育の一層の推進充実が求められている。 こうした中、各学校では新学習指導要領に示されている「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域社会と目標を共有し、学校や地域の実情に応じて、連携・協働しながら組織的・継続的な地域連携教育の取組を推進している。学校と家庭、地域、大学、企業等が連携・協働した取組の充実を図っていくためには、目標の共有をもとにした教育課程の再編や地域資源を生かした特色ある教育活動の展開につなげていくことがたいへん重要である。また、その中核となる学校運営協議会や地域学校協働本部の役割や関わり方も重要視されており、こうした取組の充実により、子供たちの郷土への誇りや愛着を育むとともに、子供の豊かな学びや育ちを実現し「人づくりと地域づくりの好循環」を創出することも重要となる。 そこで、このような好循環を創り出すために、本分科会は次の視点を中心に協議する。	
【協議の視点】 (1) ふるさとへの愛着と担い手意識を育む地域連携教育の推進 (2) 校種間連携や、学校と地域、企業等との連携・協働による成果と課題 (3) 地域の活性化や地域課題の解決につながるコミュニティ・スクール、地域学校協働活動の可能性	